

串本 潮崎本之宮神社





しくみ

左負角（出雲）

- 出雲大社本殿 356.72km
- 因佐神社 357.79km
- 前原荒神社 356.43km
- 八大荒神社 357.375km
- 大土地荒神社 356.915km
- 松林寺 356.77km
- 願立寺・誓願寺 356.81km
- 荒神神社（玉川）356.765km
- 新町荒神社356.99km

勝頂角（串本）

- 潮崎本之宮神社
- 潮崎本之宮神社
- 潮崎本之宮神社
- 潮崎本之宮神社
- 潮崎本之宮神社
- 潮崎本之宮神社
- 潮崎本之宮神社
- 潮崎本之宮神社
- 潮崎本之宮神社

右負角（諏訪）

- 諏訪湖中央 356.72km
- 大國神社 357.79km
- 千鹿頭神社 356.43km
- 佛法紹隆寺 357.375km
- 神戸神社 356.915km
- 姫宮神社 356.77km
- 神澤巻祝神（神ノ木神社）356.81km
- 素鷲社 356.765km
- 地蔵院 356.99km

- 弁天島 359.70km
- 因佐神社 359.90km

- 朝貴神社
- 朝貴神社

- 秋宮恵比寿社 359.70km
- 若宮神社 359.90km
- 高木津島神社 359.90km

詳細

- 出雲大社本殿 356.72km - 潮崎本之宮神社 - 諏訪湖中央 356.72km

出雲大社

古代より杵築大社（きずきたいしゃ）と呼ばれていたが、1871年（明治4年）に出雲大社と改称した。大国主神は国譲りに応じる条件として「我が住処を、皇孫の住処の様に太く深い柱で、千木が空高くまで届く立派な宮を造っていただければ、そこに隠れておきましょう」と述べ、これに従って出雲の「多芸志（たぎし）の浜」に「天之御舎（あめのみあらか）」を造った。島根県出雲市大社町杵築東195



潮崎本之宮神社

主祭神/底筒男命 中筒男命 表筒男命 配祀神/事代主命 神功皇后 武内大臣

当社は、『延喜式』に記される牟婁郡内の海神三神を祀る古社で、古代より海上交通の守護神として崇敬されていた。

社伝には「神功皇后三韓を伐ちて御凱神の帰途、都で忍熊王の謀反をおこしていると知り、皇后は武内大臣に皇子（応神天皇）を守護し紀伊に趣かしたが、南海に漂うた末に当地の旧名大水門浦に着かれ、そのときに当地に住吉三神の大神を祀られ海神社御本之宮と称した」という。神領は往昔7反であったが、天正年間以後2石となった。江戸時代は海神社とか本ノ宮といわれ、大島・出雲・串本3ヵ村の氏神として崇敬された。明治初年の神仏分離の動きの中で、社名を現在の潮崎本之宮神社と定めた。

東牟婁郡串本町串本 1517 番地



諏訪湖中央

諏訪大明神のもともとの姿が龍神であるという伝説は古くからいわれており、中世の日本において、この諏訪を中心にして龍神信仰（諏訪信仰）が大きな勢力を誇っていたのは間違いない。

1986年（昭和61年）、国土地理院のソナーによる湖底地形調査では、湖底に一边が25mとされる菱形の“物体”が発見された。これが信玄の水中墓ではないかとされ、信州大学、読売新聞、日本テレビなど複数の団体が10数年にわたって調査を行った。電磁波探知機により墓標のような立体が確認されたとも報道されたが、最終的には謎の菱形は湖底の窪地の影であるとの結論が出された。しかし、問題の菱形が自然にできたとは思えない程はつきりとした形をしており、湖底は泥が深く目視による実地調査が困難であることから、水中墓説を支持する声は現在でも多い。菱形の頂点が東西南北を指していることから自然の造形物とは考えにくいとされている。長野県



■因佐神社 357.79km - 潮崎本之宮神社 - 大國神社 357.79km

因佐神社

出雲大社境外攝社 御祭神/建御雷神

式内社・因佐神社と考えられている神社。ただし、『日本「神社」総覧』では「速玉社」となっているが、記されている住所はここ。天孫降臨に先駆けて、天神の御使いとして建御雷神が、稲佐浜に降臨し大国主神と国譲りの交渉をした場所として有名だ。当社の西にある稲佐浜には、建御雷神と争った建御名方命の投げた石・弁天島があり、弁天神が祀られている。

出雲市大社町杵築北



大國神社

不明。諏訪市赤羽根 8

※社が小さくてラインを乗せられない。



■前原荒神社 356.43km - 潮崎本之宮神社 - 千鹿頭神社 356.43km

前原荒神社

寛永11年（1671）藤間久左衛門、藤間八郎右衛門が本願となり創立した。天保3年（1832）杵築南字四本松の住民が三保水神社（祭神は大国主命、事代主命、間女命）を創立したが、明治39年荒神社に合併した。胞衣荒神社（祭神は高御産巢日命他7神）は慶應2年（1866）大和屋七良兵衛が本願となって創建したもので、明治42年には前原荒神社と合併した。出雲市大社町杵築南



千鹿頭神社

諏訪大社上社の祭礼の御頭祭には、古くは鹿の頭七十五個を供えたようだが、豊田の千鹿頭神社が調達の役割を果たしていたそうだが、当社はその分祠であったのだろう。もっと古くには先住民族の一であった安曇族の首を供えていたのではなかろうかと妄想する。鹿とは志賀であるから。

千鹿頭の訓について、嘉禎年中（1235～）の奥書を持つ『根元記』には、「有賀郷にチカト、上原郷にチカト、埴原田にチカト」とあるが、現在はチカトウと発音されている。また上原の千鹿頭神社の古記録には、「古代神楽歌」として、「千鹿頭の北の林の鈴虫は鈴虫は八千代の声で常にタイセヌ 千鹿頭の明神ウレシトヲホスラントヲスランユキタイマノ花ノキヨメヨ」とある。

茅野市



■八大荒神社 357.38km - 潮崎本之宮神社 - 佛法紹隆寺 357.38km

八大荒神社

玉依毘売命が祀られているとのこと。（弁天島にいた豊玉毘古命の娘）由緒不詳式内因佐神社に比定する説がある。

出雲市大社町杵築北



佛法紹隆寺

大同元年（806）征夷大將軍坂上田村麿が諏訪大明神へ戦勝報告の際に、「神宮寺」と共に開基されたと伝わります。その後、弘法大師空海和尚により、「神宮寺」を真言宗流布の寺（真言宗をひろめる寺）とし、当山を「真言宗の学問の道場」と草創され、信州・甲州にわたる田舎本山となりました。開山当初より天正年中まで諏訪大社社務（別当）という役職を務めるとともに真言宗の常法談林所という、真言宗の修行と学問の道場を務めました。江戸時代には諏訪高島藩の祈願寺を務めました。天正時代（1573-1593）には諏訪市四賀桑原寺家の地に仏法寺の伽藍が建立されておりましたが、第十一世尊朝法印代に、当山鎮守足長明神の「この山崩落せん」との神勅を受け、桑原地頭屋敷・諏訪大祝屋敷跡と伝わる現在の地に移りました。その時尊朝法印、当山山中に仏法僧鳥の声を聴き、また仏法の紹隆を願い「仏法紹隆寺」と改号いたしました。廃仏毀釈の際には、高島藩真言宗筆頭寺として、神宮寺の伽藍の再興等に尽力しますが、時代の流れには逆らえず、ほとんどの堂塔が取りつぶしとなってしまいます。その際、諏訪大明神本地普賢菩薩・普賢堂脇仏文殊菩薩・蓮池院本尊大日如来などが当山に秘かに運ばれました。後に如法院本尊普賢菩薩も当山に安置されました。

長野県諏訪市四賀桑原 4373



■大土地荒神社 356.915km - 潮崎本之宮神社 - 神戸神社 356.915km

大土地荒神社

主祭神/須佐之男命

例祭では国の重要無形民俗文化財指定の「大土地神楽」が舞われる。

神戸神社

ごうどじんじゃ 不明 諏訪市四賀若宮通3363



■松林寺 356.77km - 潮崎本之宮神社 - 姫宮神社 356.77km

松林寺

真言宗醍醐派 口紅地蔵 出雲市大社町杵築東

姫宮神社

祭神/八坂刀売神 諏訪市四賀



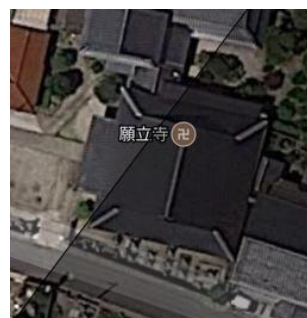
■願立寺・誓願寺 356.81km - 潮崎本之宮神社 - 神澤巻祝神（神ノ木神社） 356.81km

願立寺

浄土真宗本願寺派 不明 出雲市大社町杵築南横町2401

誓願寺

浄土宗 不明 出雲市大社町杵築西1038



神澤巻祝神（神ノ木神社）

祭神 神ノ木（かみのき）ノ命

社殿 間口三尺、奥行き四尺五寸 明治初年までは境内に橡榎（とち・えのき）の老樹ありて森を成せる由であるが、皆伐り去られ、橡の木が神木として残っていた。然るに此の橡の木も枯死して、昭和四年の秋に伐られ、その神の木の面目を保てるはない。当社は原始信仰の遺跡として、其の当時を偲ぶべきものと考えられるのであるが、時代的の変遷を経たる現在は、神澤巻の祝神として奉祀されている。

諏訪市四賀3377



■素鷲社 356.76km - 潮崎本之宮神社 - 荒神神社（玉川） 356.76km

荒神神社（玉川） 不明。茅野市玉川

素鷲社

御祭神は「ヤマタノオロチ」を退治して、現在、熱田神宮に奉安されている御神体「草薙の剣」を最初に手にしたとされる「須佐之男命（スサノオノミコト）」です。「スサノオノミコト」は「天照大御神」の弟神であり「大国主神」の何世代か前の父神でもあります。出雲大社の創建当初からの主祭神は大国主大神でしたが、実は鎌倉時代から江戸時代初期まで「スサノオノミコト」が出雲大社の主祭神だったと云われています。 島根県出雲市大社町杵築東



■新町荒神社356.99km - 潮崎本之宮神社 - 地蔵院 356.99km

新町荒神社 不明

地蔵院

地蔵院は古く地蔵堂と呼ばれていたが昭和二十七年三月宗教法令により昇格して地蔵院となった。本堂の扁額の裏書によって享保十五年（一七三〇年）の創立であることがわかっている。それより前にはここに青龍寺という寺があり、いくつかの坊や十三重の塔があったと伝えられている。空海が爪で掘ったとされる厄除け地蔵堂がある。 諏訪市大字四賀神戸3294



■弁天島 359.70km - 朝貴神社 - 秋宮恵比寿社 359.70km

弁天島

稲佐浜には、建御雷神と争った建御名方命の投げた石・弁天島があり、弁天神が祀られている。出雲市 大社町杵築北

朝貴神社

（主祭神）大己貴命 （配祀神）天照大神 火々出見尊 火産霊神 蛭子命 熊野夫須美神 速玉男神 家津御子神

長禄2（1458）年に、藤原鎌足の息子である伊美麿から25代の子孫である吉田兼俱が、長禄二年熊野三山参詣の途中に、この出雲浦で出雲の国の清地大社（現須我神社）の神霊を夢に見て、出雲浦にその神霊を勧請したものがこの朝貴神社である。出雲清地大社（現須我神社）の主祭神は、須佐之男命であるが、朝貴神社の祭神は大己貴神となっている。『紀伊続風土記』は「伊勢大神宮の摂社磯辺の神を祀るという」考えをとっている。

和歌山県串本町出雲



秋宮恵比寿社

祭神は、諏訪大神の大国主神と事代主大神。大黒様と恵比寿様の福の神。昭和23年に出雲大社及び美保神社から分霊。長野県諏訪郡下諏訪町5791



■因佐神社 359.90km - 朝貴神社 -高木津島神社 359.90km

因佐神社

出雲大社境外攝社 御祭神/建御雷神

式内社・因佐神社と考えられている神社。ただし、『日本「神社」総覧』では「速玉社」となっているが、記されている住所はここ。天孫降臨に先駆けて、天神の御使いとして建御雷神が、稲佐浜に降臨し大国主神と国譲りの交渉をした場所として有名だ。当社の西にある稲佐浜には、建御雷神と争った建御名方命の投げた石・弁天島があり、弁天神が祀られている。

出雲市大社町杵築北



高木津島神社

尾張津島神社の分社で、須佐之男命（すさのおのみこと）と牛頭天王（ごずてんのう）が祀られています。十二世紀末、疫病除け神社として建設。以後、織田氏・豊臣氏・尾張松平家の庇護のもと、天王信仰の中心社となり、多くの御師が、各地で疫病除けの布教活動をし、分社をひろめた。

長野県諏訪郡下諏訪町東高木9305



備考

出雲と諏訪を封じる串本の神。潮崎本之宮神社の祭神は住吉三神（イザナギが禊をして生まれた神々・神功皇后に神がかりした戦いの神）を勝頂角に配置。勝頂角に武神を置くのはこのしくみ（約90度ピラミダル）の基本。多くの神社が勝頂角の潮崎本之宮神社と同距離に位置する。出雲大社（杵築大社）は諏訪湖の中心と同距離。諏訪湖の龍神を鎮めて（沈めて）いるのでは。また、出雲に多く祀られている荒神と5カ所もつながった。やはり荒神はアラハバキ神と共通の出雲・縄文系の神だったのではないか。串本の水門神社の社殿位置が確認できずコンパスを回せなかったが、きっとこの神社からもほかの荒神に繋がっているのだと思う。

今回つながりは見つけられなかったが、諏訪市の先宮神社の高光姫命の由緒が興味深い。「その昔、諏訪湖の周りには、守矢神を初め、武居神、手長足長様、高照様等さまざまな土地神がいた。この高光姫命も、建御名方神の入諏に反抗した一人。しかし、ご自分の率いる民の安寧を祈って自ら幽閉の道を選ばれた」。

天孫族の配下となった出雲族間の争いも多々あったのだろう。